

◎ 聴読解問題スクリプト

Track 6

1 番 男子学生が、心理学の時間に知的好奇心について発表しています。この学生の歴史に対する今の知識量と知的好奇心は、グラフのどの部分として表すことが適切ですか。

人によって、「もっと知りたい」と思う分野は様々ですが、そんな知的好奇心は、そのことについて知っている知識量と大きく関係があると言われていています。グラフはその関係を表したものです。

例えば、僕は歴史が好きで、高校生のころは学校の図書室にある本を片っ端から読んでいました。知識が少しずつ増えていくにつれ、ますますおもしろいと思うようになりました。しかし、知識が増えれば増えるほど知的好奇心も強まり続けるかという点、そうでもないようで、最近、前ほど面白いとは思わなくなりました。

つまり、知的好奇心というのは、ほどほどの知識があるときにもっとも強くなるものなのです。

Track 8

3 番 先生が、複数の地方自治体が合併したことによる街の変化について説明しています。先生が説明している自治体は合併後、最終的にどのようになりましたか。

地方自治体の中には、行政サービスの効率化をはかるために、複数の自治体が合併して大きな自治体になるところがあります。今日は、三つの市が合併して一つの市になった、ある自治体の例を紹介しましょう。

もともとこれら三つの市には、市役所の周りを取り囲むように市街地が広がっていました。しかし、合併後は、これまでの市街地から離れた場所にまったく新しい市役所を設置して、これまでの市役所は支所に格下げしました。その結果、新しい市役所の周りには新しい市街地が形成されました。その一方で、もとの市街地はすべて衰退してしまいました。この地域には、新しい市街地とこれまでの市街地の両方を支えるだけの力がなかったのです。

Track 9

4 番 男子学生が女子学生に、自分達で企画した講演会のスケジュールについて相談しています。この男子学生は午後のスケジュールをどうすることにしましたか。

男子学生：ねえ、講演会のスケジュールを作ってみたんだけど、こんな感じでどうかな。

女子学生：あ、ちょっと見せて。ねえ、午後の研究発表だけど、発表時間はこれで足りるかしら。

男子学生：うん、できればたくさん時間をとりたいんだけど、あんまり遅くなるのもさあ……。

女子学生：それはそうよね。

男子学生：スケジュールの順番とか休憩の入れ方とかはどうかな？

女子学生：そうね。休憩が3時からかあ。時間的にはいいかもしれないけど、内容を見るとここで1回休みを入れたほうがいいんじゃない？

男子学生：なるほど、前半と後半で、調査地域が海外と国内に分かれるんだね。聞く人の立場に立つとそのほうがいいかも。じゃ、そう直しておくよ。ありがとう。

Track 14

9 番 先生が、民俗芸能について話しています。この先生が挙げた例は、図のどの部分からどの部分に変化しましたか。

人々の間に昔から伝わってきた踊りや歌、演劇などは、図のように、二つの軸で分けて考えることができます。縦の軸は、音楽や芸能が、なんのためにあるのか、その目的を示しています。横の軸が示しているものは聴衆意識です。つまり、歌い手や踊り手が他の人に「見せる・聴かせる」意識をどのくらい強く持っているか、見物人が「見る・聴く」意識をどのくらい強く持っているかということを表しています。

この二つの軸によって、民俗芸能はその性格から、四つの種類に分けられます。しかし、これは決して固定的なものではなく、一つの芸能が長い年月の間にその性格を変えることもあるのです。

例えば、ある地方に古くから伝わる踊りがあります。この踊りは、もともとは、その年の豊作を祈るための神事として行われていました。神に祈る踊りなので、この行事に参加するのは踊り手だけで、聴衆はいませんでした。しかし、ときがたち、農業技術の向上によって収穫量が増したころから、この踊りは神仏を離れ、人々が集まって楽しむための娯楽となりました。そのころの絵には、踊る人々とともに、それを見て楽しむ人々が描かれています。

Track 16

11番 先生が、だ液の作用について話しています。先生はこのあとどの作用について説明しますか。

皆さんは、だ液が食べ物を消化する際に重要な働きをしていることはご存じですね。今日は、消化以外にも、だ液が担っている重要な役割について話していきます。では、この図に示された6つの作用について、一つずつ見ていきましょう。

まず、わたしたちが食べ物を食べて、甘い、すっぱいなどの味覚を感じるのは、だ液が口の中で味覚を刺激する物質を溶かすことで、わたしたちに味を確認させているためです。まただ液は、人間が声を出すときに、舌や歯などをうまく動かすためのオイルのような働きをします。それから、虫歯の予防に役立つ作用が3つあります。食べ物のかすを洗い流す作用、歯の表面を守る作用、そして、口に入れたものが酸性でもアルカリ性でも、口の中でその度合いを一定に保つようにする作用です。では、最後に残った作用ですが、それをこれから説明します。

Track 17

12番 先生が、授業で、ネズミを使った空間探索の実験について話しています。実験2では、ネズミは何を手がかりにえさのある場所を探すのだと考えられますか。

ここに示したのは、実験に使う部屋を上から見た図です。実験1では白い壁の長方形の部屋を使います。この部屋のAの隅に食べ物を置いておき、ネズミに探させると、ネズミはすぐに食べ物のある場所を学習し、再びAの隅に食べ物を探しに行くことができるようになります。ここで、もともとどちらを向いていたかわからないようにすると、食べ物が置かれていたAの隅と、その対角にあるCの隅を同じ割合で探します。しかし、残りの隅、BとDを探すことはありません。

つまりネズミは、長い壁の左側、短い壁の右側となる隅に食べ物が置いてあるということを手がかりにして、食べ物のある場所を探すのです。

次に、実験2では、長さが短いほうの壁の一つを黒く塗っておき、その他は実験1と同じ手順で行います。すると、この場合も、ネズミはAとCの隅を同じ割合で探し、BとDを探すことはありません。ネズミは白と黒の区別ができないわけではありません。しかし、壁の長さや壁の色という、二つの手がかりを同時に使うことができないのです。